2020年度　地域共生学科食物栄養コース　履修系統図

地域共生学科食物栄養コースのディプロマポリシー

人間性と品格を備えた社会人として行動できる。	栄養士に必要な基礎的・専門的な知識や技能を身につけている。	栄養士の業務に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、コーチング能力を身につけている。	現代の食に関わる様々な課題を発見・理解・分析し、解決に取り組むことができる。	学修経験をもとに、目標とする栄養士像に近づくために自身を向上させることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

1　社会人としての教養(基礎知識)を高めるために、全学必修の「茶道文化」「大学教育入門」「社会人基礎入門」を配置する。
　他者を理解し、尊重することができる社会性を養うために学科の専門科目内でのグループワーク型授業を配置する
2　栄養士に必要な専門知識を習得するために栄養士養成規定科目を配置する
3　栄養士の業務に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、コーチング能力を高めるために、「給食の運営」、「栄養の指導」に関する科目を配置する
4　食と健康、食とスポーツ、食とライフステージに関する課題解決能力を高めるために「栄養の指導」、「スポーツ栄養」、「栄養と健康」に関する科目を配置する
5　学修体験を統合するために、「総合演習A～C」を配置する

	基礎教育科目	社会生活と健康	人体の構造と機能	食品と衛生	栄養と健康	栄養の指導	給食の運営	独自科目
2年後期	英語コミュニケーション スポーツ科学	公衆衛生学 社会福祉概論	運動生理学	食品学実習 食品衛生学実習 食品衛生学		公衆栄養学	調理学実習Ⅳ	総合演習C スポーツ栄養学実習
2年前期	心理学				応用栄養学実習 臨床栄養学実習 臨床栄養学各論 臨床栄養学総論 応用栄養学	栄養指導論実習Ⅱ 栄養指導論Ⅱ	学外実習Ⅱ 学外実習Ⅰ 給食経営管理実習Ⅰ・ 調理学実習Ⅲ 給食経営管理論	学外実習事前 総合演習B スポーツ栄養学実習Ⅰ
1年後期	地域と職業 スポーツ実習 コンピュータ演習 地域と人々		解剖生理学実習 解剖生理学Ⅱ 生化学実習 生化学	食品学Ⅱ		栄養指導論実習Ⅰ	調理学実習Ⅱ	スポーツ栄養学 総合演習A
1年前期	基礎化学実習 基礎化学 コンピュータ演習 英語コミュニケーション		解剖生理学Ⅰ	食品学Ⅰ	基礎栄養学	栄養指導論Ⅰ	調理学実習Ⅰ 調理学	栄養士論Ⅱ 栄養士論Ⅰ
全学共通科目	大学教育入門／社会人基礎入門／茶道文化Ⅰ／茶道文化Ⅱ／茶道文化Ⅲ／茶道文化Ⅳ							

赤字：栄養士養成規定科目
黒字：選択科目

2020年度　地域共生学科製菓コース　履修系統図

地域共生学科製菓コースのディプロマポリシー

心豊かな人間力	豊かな専門的知識や技能	コミュニケーション能力	課題解決能力	主体的に学ぶ力
人間性と品格を備えた社会人として行動できる。	製菓の専門的知識や技能を確実に修得し、体系的な理解ができる。	多様な人々と協働して学ぼうとする意識を持ち、人々との交流の中で自	修得した知識や技能をもとに思考や判断を行い、現実の課題を解決するこ	学習体験をもとに、自己のキャリアをっ主体的にデザインすることがで

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

1. 基礎的な学力を身につけ、社会の出来事に興味を持ち積極的に学び続けるために「茶道文化」「社会人基礎入門（地域と大学）」、「地域と人々」などを配置する
2. 製菓製造に関わる専門的知識を身につけ、安定した菓子製造に使える包括的な理解ができるために「食品衛生学」「製菓理論」をはじめとする製菓衛生師専門関連科目を配置する
3. 製菓製造の場面での自分の役割を理解し、協働作業ができるために「製菓実習」「調理実習」などを配置する
4. 専門的知識・技能を応用し、課題解決のためのアイデアを構想し、実行できるために「製菓店経営概論」「総合演習」などを配置する
5. 菓子製造に関する学修体験をもとに、自己のキャリアを主体的にデザインすることができるために「カフェ学」「総合演習」「ビジネスマナー」などを配置する

キャップストーン科目　総合演習Ⅰ・Ⅱ

		発展	専門	基礎・専門	基盤
2年後期		専門関連科目 ホスピタリティ論	専門教育科目 衛生法規 食品衛生学Ⅲ・Ⅳ 製菓理論Ⅲ・Ⅳ		専門教育科目 製菓店経営概論 専門関連科目 ホスピタリティ論
2年前期			専門教育科目 製菓実習Ⅲ・Ⅳ 食品衛生学実験	専門関連科目	専門関連科目 製菓実践演習 カフェ学Ⅱ
1年後期				基礎教育科目 コンピュータ演習Ⅱ 英語コミュニケーションⅡ フランス語Ⅱ 日本語Ⅱ	専門教育科目 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 食品学Ⅰ・Ⅱ 栄養学Ⅰ・Ⅱ 食品衛生学Ⅰ・Ⅱ 製菓理論Ⅰ・Ⅱ
1年前期				基礎教育科目 コンピュータ演習Ⅰ 英語コミュニケーションⅠ フランス語Ⅰ 日本語Ⅰ 心理学	専門教育科目 製菓実習Ⅰ・Ⅱ 製菓技術実習
全学共通科目					

専門関連科目
調理実習Ⅰ・Ⅱ

基礎教育科目
スポーツ実習

専門関連科目
ビジネスマナー

基礎教育科目

専門関連科目
調理実習Ⅰ・Ⅱ

茶道文化Ⅰ／茶道文化Ⅱ／茶道文化Ⅲ／茶道文化Ⅳ／大学教育入門／社会人基礎入門（地域と大学）

地域と人々／地域と職業

学科共通科目

カリキュラムポリシー（実施の方針）					
	講義を中心に、小テストや筆記試験などを通じて知識の定着を図る	アクティブラーニング	法令に準じて事例を用いる	法令に準じて事例を用いる	学生が主体となり課題を設け、実践を行う総合演習、課外活動

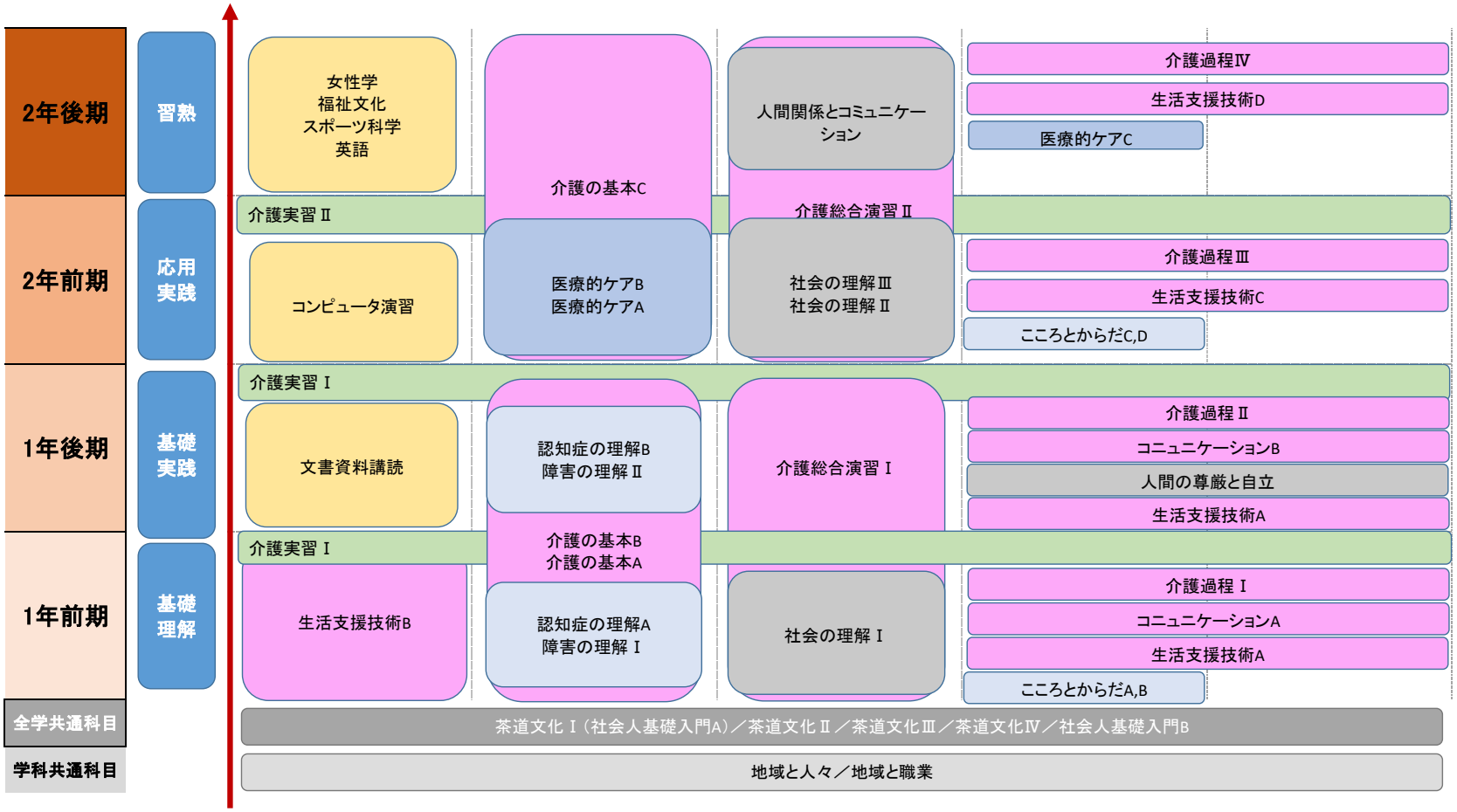
2020年度　地域共生学科介護福祉コース　履修系統図

地域共生学科介護福祉コースのディプロマポリシー

心豊かな人間力	確かな専門的知識や技能	コミュニケーション能力	課題解決力	主体的に学ぶ力
人間性と品格を備えた社会人として行動できる	介護福祉の専門的な知識と技能を修得し、体系的な理解ができる	介護が必要な人や家族、職場の同職種・多職種及び地域の人とコミュニケートすることができる。	（実践力） 専門的な知識や技能を用いて本人や家族のエンパワメントを見出し、	自分の介護観や理想とする介護福祉士像になるためにキャリアデザインすることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方）

1　人間力を養うため、「茶道文化」「社会人基礎入門」をはじめとした基礎科目、「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーション」「介護の基本」などの専門科目を配置する
2　専門的知識と技能を養うため、介護の領域として「介護の基本」「生活支援技術」など、こころとからだのしくみの領域として「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」など、人間と社会の領域として「社会の理解」など、順次性と系統性を考慮しながら配置する
3　コミュニケーション能力を養うため、基礎的な知識の習得を目指して「コミュニケーション技術」を配置し、また、コミュニケーション能力を発揮する機会として「介護実習」を配置する
4　課題解決能力を養うため、「介護過程」を配置し、「介護の基本」「生活支援技術」といった知識と技能の習得に関する科目と「介護実習」をつなぐ
5　主体的に学ぶ力を養うため、実習前後の準備と事例研究の作成を行う「介護総合演習」と59日間の「介護実習」を配置する



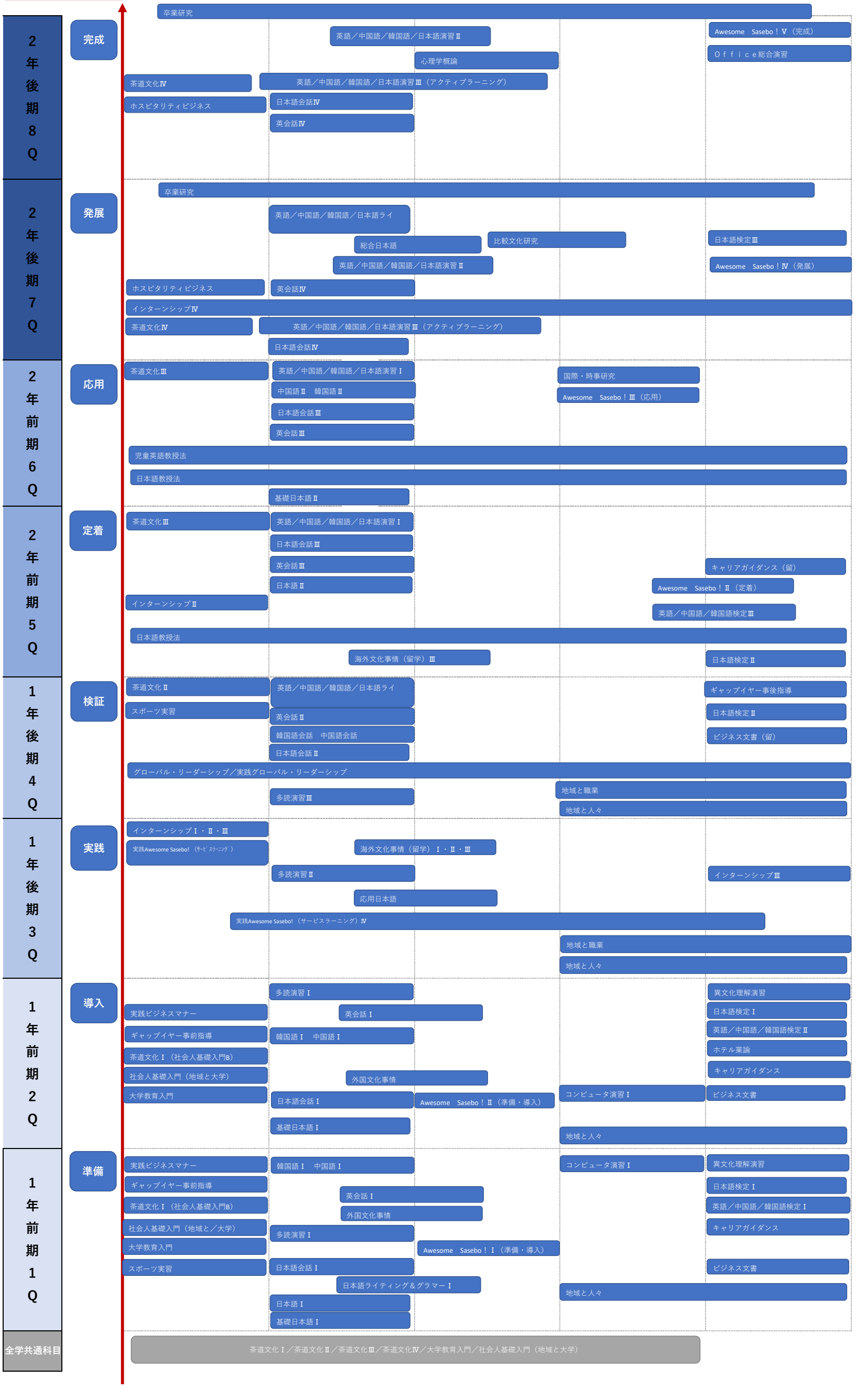
人間と社会　介護　実習　こころとからだのしくみ　医療的ケア　基礎教育科目（選択）

２０２０年度　地域共生学科国際コミュニケーションコース　履修系統図

地域共生学科国際コミュニケーションコースのディプロマポリシー

心豊かな人間力	専門的知識や技能	異文化知識・対応能力	課題解決能力	キャリアデザイン力
人間性と品格を備えた社会人として行動できる。	確かな語学力をもち、情報機器の操作のスキルと合わせてプレゼンテーション等情報の発信が行える。	コミュニケーション力とグローカルな視点によって多様な人々と積極的に交流することができる。	専門的知識や技能を適切に用いて実践的な課題の解決に取組むことができる。	（２年間の）学修成果を活用したキャリアデザインに取組むことができる。

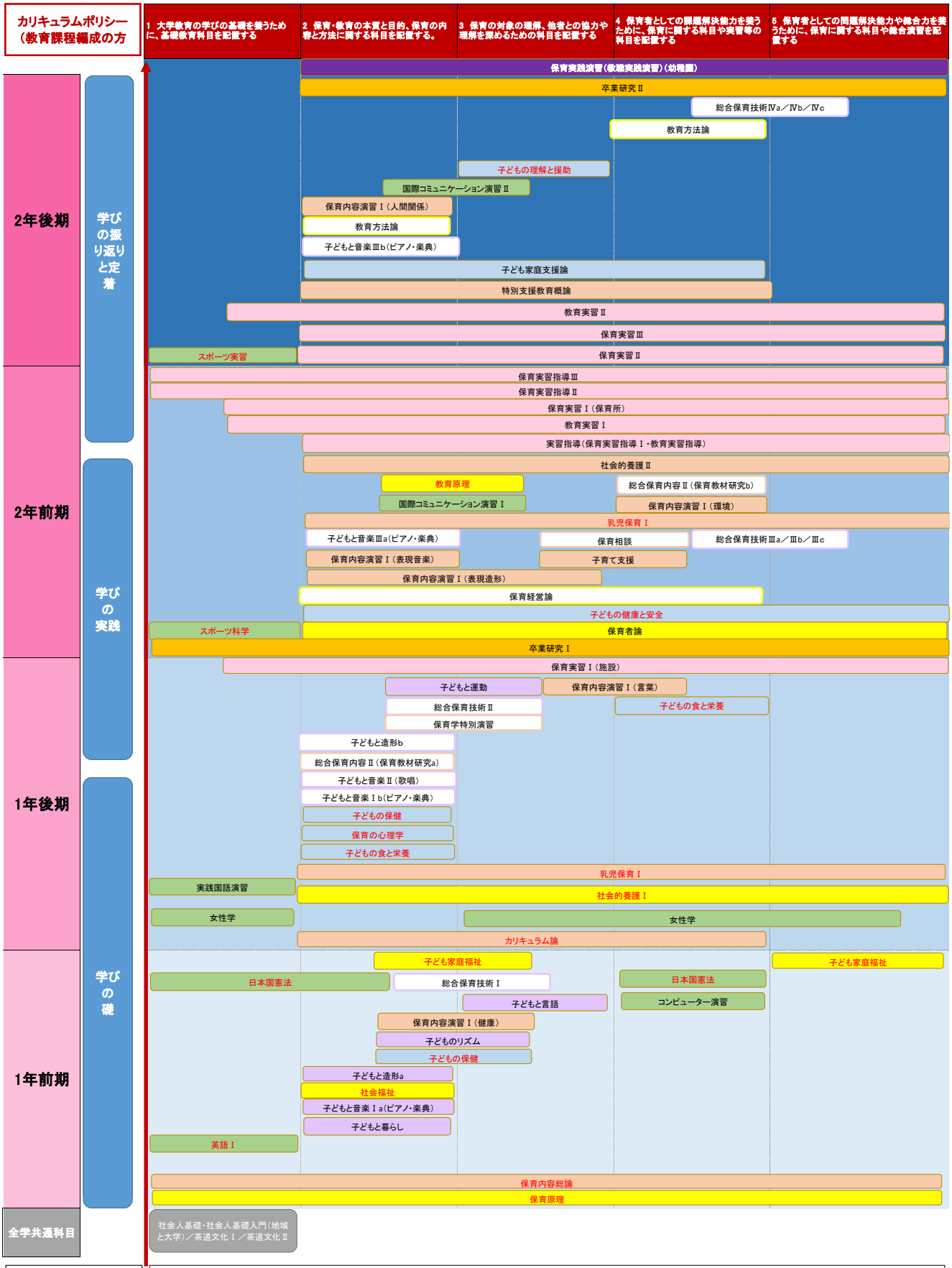
カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）	豊かな人間力を養うために、全学必修の「茶道文化」「社会人基礎入門」をはじめとする基礎科目、学科の専門科目内でのグループワーク型授業、地域をフィールドに展開する「Awesome Sasebo! Project」関連科目を配置する。	専門的知識や技能を育むため、語学系の講義科目・演習科目や、比較文化学系の講義科目・演習科目を、順次性と系統性に配慮しながら配置する。講義科目においても可能な限り、アクティブラーニング型の授業を展開する。	コミュニケーション能力を育むため、「Awesome Sasebo! Project」活動、インターンシップ、留学体験等、多様な学外体験学修の場で出会う多様な人々（学修に関するステークホルダー）との交流を促進する機会を設ける。	課題解決能力を育むため、（実践的な課題を発見し解決する力を高めるために）「Awesome Sasebo! Project」活動、インターンシップ、留学体験等、多様な学外体験学修の場を本学科の教育課程の中核に位置づける。	キャリアデザイン力を育むため、「キャリアガイダンス」、「キャリアプランニング」、「ビジネスマナー」等のキャリア関連の専門科目を適切に配置し、「卒業研究」を総まとめ科目とする。



2020年度　保育学科　履修系統図

保育学科のディプロマポリシー

人間性と品格を備えた社会人として行動できる	保育に関する専門的知識・技能を修得し、体系的な理解ができる	保育の対象を理解し、保育にかかわる様々な人々と協働する力を身に付けて	保育に関する専門的知識・技能を応用し、様々な課題を解決する保育実践力	自己課題を探求し、地域の保育の発展と向上のために学び続ける力を身につける



カリキュラムポリシー（実施の方針）

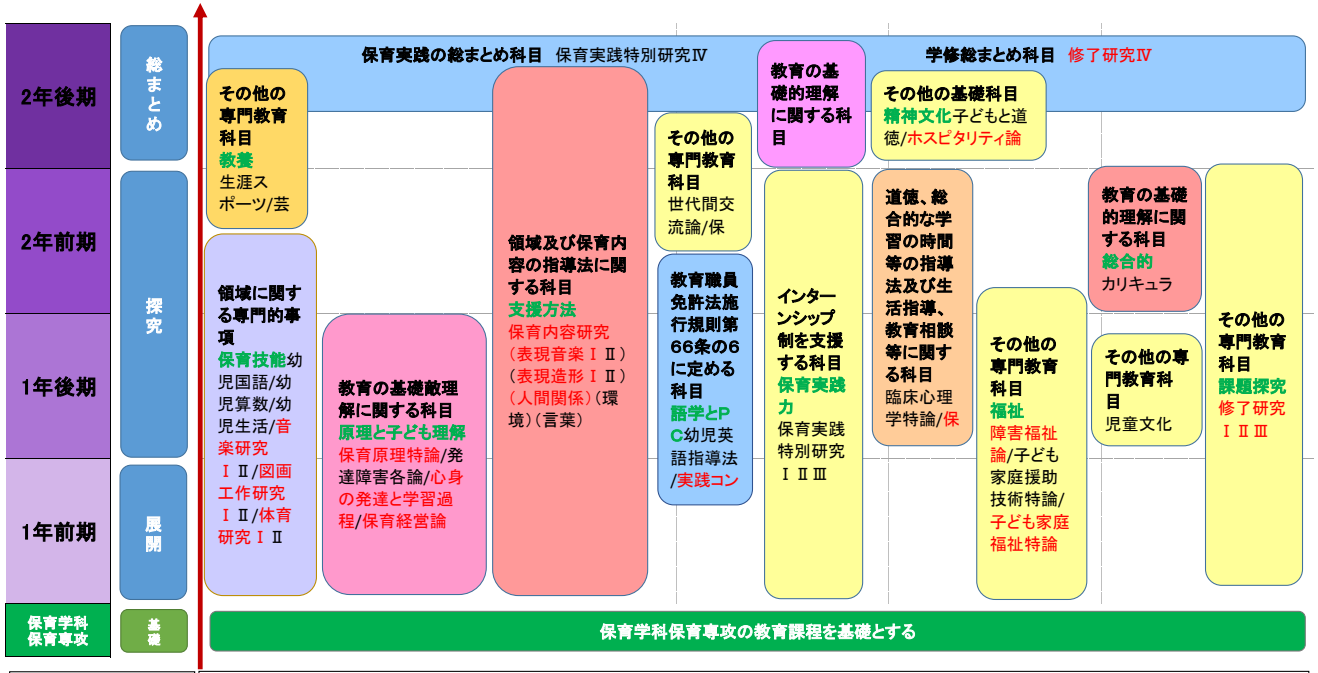
教育内容・教育方法・学習方法については以下の通り定めます。
（1）教育内容
児童福祉法施行規則ならびに教育職員免許法施行規則を遵守し、教養科目や保育に関する専門科目を体系的に配列した教育課程の中で、必修科目や選択科目の内容に沿った教育を実施します。
（2）教育方法・学修方法
学期（セメスター）毎に、講義、演習、実習、実技を適切に配置し、実務家教員による授業、反転授業、フィールドワークなどのアクティブラーニング型授業の展開に努めます。
学生の学び（学修成果）の確認と定着を促すために、各種の試験・課題・レポート等による多元的な評価を行い、結果を迅速に学生にフィードバックするよう努めます。

2020年度　専攻科保育専攻　　履修系統図

専攻科保育専攻のディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）	Ⅰ　知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等） 豊かで幅広い教養を身に付けている。　　保育に関する専門的知識・技術を修得し、子どもを取り巻く環境を社会認識によってとらえ正しく理解している。	Ⅱ　汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等） 保育の様々な場面で問題を多角的かつ根源的に理解・分析し、解決していく力を身につけている。	Ⅲ　態度・志向性（自己管理力、チームワーク、倫理観、社会的責任　等） 地域の発展・向上に寄与する使命感を持ち、協働の意識とマナーを身につけ、保育の現場を支えることができる。	Ⅳ　総合的な学習経験と創造的思考力 体系的な学習と現場での経験を保育実践力として総合し、保育の様々な課題を探究し続ける思考を持っている。

ベンチマーク	①外国語コミュニケーションと情報機器の操作のスキルを効果的に保育に活用することが	②領域の専門的知識と技能	③保育内容の指導法	④保育の基礎理論	⑤幼児理解・保育相談	⑥子ども福祉	⑦保育実践	⑧保育研究	⑨一般教養	①課題発見力	②情報収集分析力	③問題解決力		①自己管理	②他者理解	③協働力	④使命感	①学修の体系化	②保育実践力	③研究力	
レベル4	外国語コミュニケーションと情報機器の操作のスキルを効果的に保育に活用することが	領域の専門的知識と技能を総括的に保育に活用することができる	保育内容の指導法のスキルを効果的に保育に活用することができる	保育の基礎理論を効果的に保育に活用することができる	幼児理解・保育相談の理論を効果的に保育に活用することができる	子ども福祉の理論を効果的に保育に活用することができる	保育理論を効果的に保育に活用することができる	保育の課題について研究した内容を、適切な方法で社会に伝達することができる	教養の中から自らの生き方を高める要素を見つけている	社会や地域の課題について考察することができる	情報を論理的に組み立てることができる	科学的かつ倫理的な方法で問題を解決することができる		社会の模範となるような生活と志向が確立している	他者を受容する豊かな心情と考えを持つことができる	それぞれのチームのために建設的な意見を持ち、目的に貢献することができる	地域の福祉と教育に貢献する努力を継続することができる	これまで学修した内容を総合し、創造的な思考ができる	保育理論を論理的な方法によって実践することができる	保育の課題について研究した内容を、適切な方法で社会に伝達することができる	
レベル3	外国語コミュニケーションと情報機器の操作のスキルを保育の現場で用いることができ	領域の専門的知識と技能を保育の現場で用いることができる	保育内容の指導法のスキルを保育の現場で用いることができる	保育の基礎理論を保育の現場で用いることができる	幼児理解・保育相談の理論を保育の現場で用いることができる	子ども福祉の理論を保育の現場で用いることができる	おおむね保育理論の全体を保育現場で活用することができる	保育の課題について適切な方法で分析をおこない、考察することができる	教養を深めることに対して意欲的に取り組んでいる	社会や地域の状況の中から課題を抽出することができる	収集した情報を分析することができる	問題解決の筋道を立てることができる		社会の一員としての意識を持つことができている	自分と他者の心情や考えの共通点と相違点を客観的にとらえることができる	それぞれのチームの機能性を高めるために協働することができる	地域の福祉と教育に貢献する自らの姿をイメージすることができる	これから学修すべき自己課題を見つけることができる	おおむね保育理論の全体を保育現場で活用することができる	保育の課題について適切な方法で分析をおこない、考察することができる	
レベル2	外国語コミュニケーションと情報機器の操作のスキルを概ね修得している	領域の専門的知識と技能を概ね修得している	保育内容の指導法のスキルを概ね修得している	保育の基礎理論を概ね修得している	幼児理解・保育相談の理論を概ね修得している	子ども福祉の理論を概ね修得している	保育理論の一部を保育現場で活用することができる	保育の課題について必要な情報を収集するとともに仮説をたてることができ	教養を持つことに対して強く関心を持っている	社会や地域の状況を正しく理解している	おおむね情報収集の方法を会得している	問題を科学的に分析することができる		心身の健康を保つ生活と志向を持つことができる	他者の心情や考えに共感することができる	チームの中での自分の役割をおおむね果たすできる	地域の福祉と教育に貢献する意欲的な態度を持っている	これまで学修した内容を構造化することができる	保育理論の一部を保育現場で活用することができる	保育の課題について必要な情報を収集するとともに仮説をたてることができる	
レベル1	外国語コミュニケーションと情報機器の操作の概要を理解している	領域の専門的知識と技能の関連性を理解している	保育内容の指導法の概要を理解している	保育の基礎理論の概要を理解している	幼児理解・保育相談の概要を理解している	子ども福祉の概要を理解している	保育理論とこれを用いる実践場面の関係が理解できる	保育の様々な場面の中から自らの課題を抽出することができる	人間にとっての教養の必要性を理解している	社会や地域の状況を知る姿勢を持っている	おおむね情報の種類を理解している	問題の原因を見つけることができる		心身の健康を意識することができる	他者の心情や考えを理解することができる	チームの中での自分の役割を認識している	社会における福祉と教育の必要性を認識している	これまで学修した内容を整理することができる	保育理論とこれを用いる実践場面の関係が理解できる	保育の様々な場面の中から自らの課題を抽出することができる	

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）	1　保育現場において活用する語学とPC操作の科目を配置する。 保育職の意義、保育の基礎理論、幼児の理解および幼児の活動を支援する方法に関する科目を配置する	2　保育実践力を培うための科目を配置する	3　幼児を取り巻く社会状況の理解や精神文化についての科目を配置する	4　課題探求と総合的保育力を向上させるための科目を配置する



カリキュラムポリシー（実施の方針）	教育内容・教育方法・学習方法については以下の通り定めます。 （1）教育内容 全学共通の教養科目や各学科の専門科目を体系的に配列した教育課程の中で、必修科目や選択科目の内容に沿った教育を実施します。 （2）教育方法・学修方法 学期（セメスター・クォーター）毎に、講義、演習、実習、実験、実技を適切に配置し、全授業形態を通してアクティブラーニング型授業の展開に努めます。 学生の学び（学修成果）の確認と定着を促すために、各種の試験・課題・レポート等による多元的な評価を行い、結果を迅速に学生にフィードバックするよう努めます。